

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 10月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104898		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・高陽		
所在地	〒739-1732 広島県広島市安佐北区落合南七丁目10番20号 (電話) ① (082) 841-5670 ② (082) 845-2050		
自己評価作成日	令和3年7月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104898-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者、家族、職員3者にとって過ごしやすい、安心できる、働きやすい環境のもとでサービスを提供し、生活にあまり制限は設けず要望や希望を形にできるサービスを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

日々のコミュニケーションを通じ利用者の思いや意向を把握することを基本とした安心して過ごせる生活環境の提供と「当たり前な生活」を実現できるよう、家族への報告・連絡・相談を密に行い関係構築を図ることで可能な限り制限を設けず本人、家族の要望や希望を形にできるサービス提供を実践している。又、事業所管理者は職員一人ひとりの意見や要望を法人本部と話し合い働きやすい職場環境の提供に務めている。利用者、家族、職員の3者が共に過ごしやすい環境で実践されている。
運営推進会議を通じ民生委員や地域包括支援センターなど、地域や行政との連携を図るとともに豪雨災害時には関係機関と調整を行い、事業所の敷地を通路として提供することで地域貢献を果たしている。

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社スローガン「ぬくもりでつながる新たな風土作りへ」を基に利用者、ご家族、職員も安心して生活を送れるよう、極力制限は設けないようサポートをしている。	会社スローガンを基に事業所管理者を中心にユニットごとに利用者、家族、職員が共に安心できる生活を実現できるよう極力制限を設けない当たり前の生活作りのサポートを行っている。	10月に法人本部より新たな会社スローガンが掲げられている。新たな事業所目標を職員全員で話し合い設定することでケアチームとしての結束と目標達成意識の向上を図り、更に質の高いサービス提供が行えるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナの影響で交流機会は減少しているが、家族との繋がりを維持できるようリモートや状況を見ながらの面会、水害が起こった際などは地域と協力して災害対策に取り組みホーム敷地を通路として提供したりと認知度は上がっている。	散歩等を通じ日頃から近隣住人と挨拶を交わし交流を図っている。又、町内会に加入し回覧板による情報共有や地域行事への協力など、コロナ禍においても間接的な取り組みを行う事で地域との繋がりを維持している。災害時には行政、地域と話し合い敷地を通路として提供することで地域貢献を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方へこちらからの発信は乏しい状況ではあるが、相談や問い合わせなどあれば見学や電話対応など真摯に対応を続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は新型コロナの影響で照会方式での文章通達とはなっているが、文章での返答、口頭での意見なども頂きながら運営を進めている。	民生委員、地域包括支援センターに毎回、意見聴取を行い会議運営を行っている。事業所の現状や事故報告と合わせて行事報告や日頃の生活状況を写真付きで公表し事業所の見える化を図っている。会議内容は職員に周知、情報共有を行い、サービス向上に務めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困難ケース、苦情等あれば報告、相談を行った実績はある。また、生活課などとも利用者の状態の変化があれば担当者とも相談している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し情報共有を図っている。又、市町とは日頃からの相談、運営推進会議録や事故報告書などの提出を通じ連携を図っている。生活保護利用者の受け入れを行っており生活課職員の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会の開催、身体拘束、虐待研修も年1回、全スタッフ対象に開催し、身体拘束などについても定期的に委員会で現状の振り返り検討もしている。	定期的に身体拘束委員会を開催している。身体拘束、虐待防止に関する外部研修に積極的に参加し事業所内で伝達研修を実施し情報共有を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回の研修の実施、委員会での検討結果、報告も行いながらスタッフの意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度等の研修は行っていないが、利用者に必要な状況が発生すれば、活用の案内など行っていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、家族や本人の不安や疑問を解消するよう希望、質問などに答え、解約時も同様に次の施設や在宅サービスにつなげるサポートも行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に意見、要望、苦情などの窓口の設定状況など説明を行っている。また、面会時や、ケアプランの更新の際にも要望等について何うようにし、本社よりアンケートも実施している。	利用者の意見や要望を日々の会話の中から把握するよう務めている。家族からは契約時の他、面会時や介護計画作成時などを活用し意見要望を聞き取れる機会を設けている。利用者、家族の声を受け、オンラインで孫の結婚式に参加できるよう支援した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議、その他の場面での意見等あれば管理者会議や直属の上司への相談など要望として伝えている。	管理者は職員が意見を発しやすいよう関係構築に努めている。随時、個別の面談機会や定期的なスタッフ会議を開催し意見聴取を行い法人上層部へ要望を伝えている。例として慰労金の取り扱いや福利厚生の実施が図れたことで働きやすい職場作りを行うことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議等の場で意見は上司に対し伝えている。また、スタッフの力量、意欲に応じ将来的なポジションについても検討している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの教育システムは出来ていないが、外部研修などでスタッフの希望、必要性を考慮し、スキルアップに向けて介護福祉士実務者研修、その他の研修についても社内研修制度を活用し対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	入居相談等を通じ近隣の事業所などのネットワーク、相談等も行っており、事業所間でのつながりも増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、本人の状態変化を考慮しながら、本人、家族に意向を伺い、プランへ反映している。		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画作成、更新時、面会の際などご要望等聞きながら協力できる事があれば行っている。また、都度、連絡等あれば応じ対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の事前調査により、どのような経過で、何を望んでホームへ入居になったか、また入居後はどのような対応を希望されるのか、どのような事が起こる可能性があるかもスタッフへサマリー、口頭で周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場という意識を持ち、職員が全ての事を行うのではなく、部分的にも関与してもらえよう声かけ、協力を依頼しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナの影響で面会などは制限がされているが電話での対応や新たな面会方式(オンライン、短時間での面会)など実施し家族との繋がりは維持できるようサポートしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年は厳しい状態ではあったが、家族の相談、了解があれば対応している。基本的には制限はない状態になっている。	利用開始時に本人、家族の意向を確認し面会に関するルール化を行うことで可能な限り自由な面会ができるようにし、馴染みの関係性が継続できるように支援している。又、家族の協力が得られるようであれば墓参りや外泊なども可能としている。コロナ禍ではあるがICTを活用し友人との音声通話を楽しまれた例がある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者それぞれの性格を把握した上で、それぞれの関係を観察しながら場合によっては調整し、出来るだけ個々に適した環境設定を心がけている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退居の際には何か相談があればいつでも対応しますとお伝えし関係性を維持するようにしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>訴えのできる方には可能なかぎり、本人本意で、そうでない方には家族へ聞いたり、本人に必要な援助を検討している。</p>	<p>日々の会話から利用者の思いや意向の把握を職員全員が行っている。意思表示が難しい時は利用開始時に家族や後見人などから生活歴や性格について聞き取りを行い、利用者がどのような生活を求めているのかを念頭に本人本意の支援が行えるよう検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>事前調査の情報、家族との話しの中、また本人との会話や生活の様子から知り得た情報を会議、日常業務で共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>アセスメントにより、ある程度は把握できているが、常に変化をしていくものなので日常の状態観察、申し送り、会議にて共有し、場合により必要であれば対応を柔軟に変えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族には面会や電話などご希望や施設内での様子もお伝えしご希望などもお伺いし、その他、協力関係機関の意見なども踏まえて計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月を目処にケアプラン更新を検討し家族の意向を確認している。利用者ごとに担当職員を選定しており担当者のモニタリングやアセスメントを反映し計画作成者が原案作成を行い家族同意を得ることで本プランとしている。完成したケアプランは職員間で回覧し情報共有を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様子、変化については個別記録、申し送りへ記載し対応を変更する場合も申し送り等を活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族、本人からの要望などに応じ、ホームとして柔軟性をもって家族や本人の事情に合わせた対応をするよう心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の民生委員、家族、同一グループなどの力も借りながら運営を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>常時本人状態が把握できているため、対応がスムーズに行える利点から、協力医療機関(内科)への主治医変更をお願いしているが、家族の希望であればそのままの主治医で対応している。</p>	<p>利用開始時に適切な病状把握と円滑な連携が行える利点を提示した上で協力医療機関への主治医変更を依頼している。2週間に1回の往診や歯科往診、訪問看護事業所との連絡体制を確保しており、安心して生活ができる医療提供体制を確保してできるよう務めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問時や電話、往診などで利用者の情報を共有し、褥瘡のケアや医療へ受診する際の意見など聞きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにより情報提供を行っている。また入院時にホームの窓口もお伝えし早期の退院、退去などあれば一緒に検討をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	基本的には常時、医療行為があった場合には継続的にホーム利用は難しく、終末期までの対応はできないと入居前、入居時には伝え理解いただいている。終末期を迎えても可能な限りホームで生活をおくりたいと要望があればできる範囲で対応している。また他の関係機関への照会、転居調整もしている。	利用開始時に医療や看取りに関する指針を説明し理解を得ている。看取りは行っていないが終末期に備え入所や入院に向けた支援を行っている。重度化した際は主治医を交え予後について家族説明を行い、指針に基づいた範囲内で適切な支援が行えるよう務めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習は全スタッフが受講し、適切な連携をどうとるかなど、対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練、1回の災害訓練を実施している。うち1回は、近隣住民の方と夜間を想定した合同避難訓練を実施し、災害時には応援をいただくことをお願いしている。また、スタッフにも災害時の避難場所、連絡網、持ち出し物等、訓練を通じ説明している。	定期的に災害対応マニュアルを法人本部が更新する。マニュアルに基づき夜間想定や利用者、地域住民も参加して年2回の避難訓練と年1回の災害訓練を行っている。法人間で備蓄品の共有や緊急時の受け入れ先を確保することで分散避難が行える体勢作りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人一人の思いや、現状態、事情を把握したうえでその方に合った個別の対応を心がけている。	プライバシーや個人情報保護に関し幅広く知識の修得が図れるよう研修体制を確保している。入浴や排泄時は利用者目線で羞恥心に配慮した個別ケアを心がけている。又、利用者一人ひとりの生活リズムを把握することで自室での過ごし方など個人の領域を尊重したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の訴えや希望を、可能な範囲で対応できるよう心がけており、決定時は自分の判断で選択し家族への思いを伝えながら、実現を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームの体制や状態も加味しつつ、利用者の希望や過ごしたかなども柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットや髪染め、パーマ、また化粧品の購入など、ご本人や家族と相談しながらご本人の意向を出来るだけ反映するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生会のお寿司、季節感のあるバーベキュー、そうめん流し、またその日に食べたいと希望があれば出来る限り対応している。一緒に調理が出来る方は無理のない程度で、盛り付け、食器洗いと一緒にやっている。	材料の下準備や配膳、片付けなど利用者と協力し3食手作りの食事提供を行っている。利用者毎に合わせた食事形態への変更を行うが視覚的にも食事が楽しめるよう盛り付けに工夫をしている。日々、利用者の意向を聞き取り誕生会や行事食を提供している。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>主食、副食の形態、ダイエットの必要な方は量などを調整するなどして提供している。また状態、個々の習慣、嗜好も配慮し提供している。利用者の状態に応じ特定の食材を多めに食べてもらうなどへも取り組んでいる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアは義歯の方も含めて基本的には毎食後に実施し、歯科往診も必要な方には受けて頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレ誘導を基本として対応し、水分量や排泄状況に応じ、内服の変更、誘導のタイミングも配慮している。</p>	<p>定時誘導を基本としながら前後の排泄状況や水分摂取量、内服状況を考慮することで本人の排泄パターンに合わせた対応を実施している。パットの利用を拒否する利用者に対し排泄パターンの把握や残存機能を活用したケアを提供することで排泄の自立支援を図った例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事や水分、運動など利用者の訴えやお体の状況を踏まえ個人的に飲食や内服など調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴のタイミングや時間など配慮はしている。順番など希望を聞いてできる範囲で配慮している。</p>	<p>午後から入浴の時間を設けているが利用者の希望や当日の体調に合わせて入浴日や入浴時間の変更を行い週3回の入浴を提供している。使い慣れたシャンプーや石鹸の持ち込みや季節に合わせた入浴剤の提供を行い快適な入浴を提供できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中、夜間の睡眠状態を見なが ら内服のタイミング、誘導方法も スタッフ間で共有しながら対応し ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬状況がわかるようファイル に閉じ、スタッフがいつでも確 認できるようにしている。内服 の増減もスタッフ周知し、往診 時のDrに様子を伝えながら調 整をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>個々の状態にあった対応を心が け、本人の嗜好や要望にも、柔 軟に対応できるようご家族、協 力機関とも協力しながら対応 している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。</p>	<p>新型コロナの影響でここ1年は インドアメインとはなっている が今後は世の中の情勢をみなが らご家族とも相談し可能な範 囲で実施していく予定である。</p>	<p>職員と一緒に散歩を兼ねてゴミ 出しや郵便物の投函、買い物な どで日常的な外出を行っている。 外出時には近隣住人と挨拶を交 わすなど交流を図っている。近 隣の公園やテイクアウト型の飲 食店へのドライブでコロナ禍にお いての非日常の体験を提供して いる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>紛失のリスクを家族に説明し、 基本的には所持されていないが 、金銭に対しての思いが強い方 や家族の希望があれば可能とし ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族への連絡を希望される方は電話、連絡(電話)が入った際には希望があれば、本人と変わってお話をしてもらっている。また、出来る方は手紙のやり取り携帯等も持っておられ活用されている、最近はオンラインでの面会も可能となっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁画や季節の飾りなど季節ごとに変化させている。またその他の環境面等もシンプルで落ち着いた色調にしている。</p>	<p>利用者と共同し、四季に合わせた飾りつけを行うことで季節の移り変わりを感じることができるようにしている。温度や湿度管理や換気を行うことで外気を取り入れ、快適な共用空間を提供できるよう務めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自分の席やソファなど各自一人で過ごせる場所は確保できている。人間関係を配慮しなるべくストレスが少なく、導線の良い環境を心がけている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的には持ち込みの制限はなく、馴染みのものを置くなど自由に使用していただいている。</p>	<p>居室には使い慣れた椅子や机などの家具や仏壇や写真など、家族との繋がりを感じられる品を利用開始前に本人、家族と検討し自由に持ち込むことができる。又、健康器具といった生活歴を反映したこだわりの品を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫を行った例もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>福祉用具など必要に応じ、調達しケガなく安全で生活しやすい環境を整えている。今後も必要に応じていく。</p>		

V アウトカム項目(高陽①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全事業所共通理念、ユニット間での理念を掲げ、利用者それぞれの意向を尊重し、定期的に職員間で確認し個別ケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在コロナウイルの影響の為地域との交流や繋がり、行事への参加は中止となっているが、回覧板等により地域行事のお知らせは頂いている。今年もホームの玄関先にでも観覧させて頂く、行事がある事を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所発信ではなかなか出来ていない状況だが、認知症サポーターメイド、認知症ケア専門士保有職員がおり、依頼があれば対応も検討可能。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在コロナウイルの影響の為運営推進会議は書面のみの報告となっている。ホーム内の様子を書面で見え頂き、地域包括支援センターより、感想を頂き、励みとなっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告、困難事例、苦情対応などあった際には相談などしている。情報共有、協力体制等、今後も維持して行く予定。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	コロナウイルスの影響にて制限があったが、広島市高齢者虐待防止研修会に参加(2020年度)、職員会議時の内部研修や、身体拘束委員会実施にて、ホーム全体で検討、周知、共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	記録や事故報告書等での確認、日々のケアでの気付き、内部研修など、職員間で共有しながら業務へ当たっている。又職員間で、話しやすい環境を作り等にも、配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	任意後見を利用されている方はおられる状況、後見人の方との関係、又、内部研修を通じて学ぶ機会へ繋げていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、家族へ十分な説明を行い、希望、質問などにもお答えしている。また、改定事項があればその都度電話等での説明、文書での承諾を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に意見、要望、苦情などの窓口の説明を行っており、面会時やケアプランの更新の際にも要望等について伺うようにしたり、本社よりアンケートも実施している。アンケートについては本社でまとめた文章をカンファレンスの場で、職員全体で共有、周知している。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や日常業務中の中で、スタッフの要望や意見等を聞き入れ、対応可能な範囲で改善し検討している。又個人で話しやすいよう、必要に応じて面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修制度や労働条件など少しずつ進歩している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	現在コロナウイルの影響の為、内部、外部研修は、制限されているが、必須の研修会に関しては、受講者が持ち帰ったスキル、知識を生かせるよう、情報共有する事で、スタッフの能力向上の意欲を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在コロナウイルの影響の為、グループ内での内部研修等の機会や交流は、制限されている状況にあるが、通信ツールを利用してサービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コロナウイルスが流行し始めた時に、入居されサービス利用を開始された方は、今までにない制限下の中でのサービス利用となられ、不安や不満の訴えが多くあった。可能な限りニーズに沿った、メンタル面・フィジカル面のケアを行えるよう現在も取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりにも努めている。	現在コロナ渦中にて、入居の面談の際、またはサービス計画更新の際に、当ホームへ来所が困難な遠方の家族へも、電話やSNSを活用しながら状況の説明を行い不安を軽減出来るように対応し、今後の要望も聞きサービスの実行に移している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在コロナ渦中にて、他のサービス利用より、先ずはホーム内での集団生活となる環境に慣れていただくことから始め、生活のご様子を観察しながら、ご家族様にお伝えし、個別対応に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「顔見知り」の関係を築く事により信頼関係と、安心感を持って頂き、身体及び認知機能の維持に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在コロナウイルスの影響の為、ご家族とはドア越しの面会となり、まだ直接的な交流が持てない状況にある。ご本人の様子を通信ツールを利用し感じて頂く対応も行っているが、数名のご家族としては、電話や通信ツールを利用するより、直接顔を見て会話、様子が見れることを待ち望んでおられる。可能な限り近況をお知らせしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在コロナウイルスの影響の為、馴染みの方の面会など、制限されているが、通信ツールを利用する事で、維持できるように対応している。実際、ご友人がホームへ電話して下さい、その方の声を聞かれたら思い出され、楽しく会話されている。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の「馴染みの関係」や本人が安心出来る「生活の場」である事に配慮しながらケアを行っている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	次の施設が見つかるまで紹介を行ったり、退居後も相談を受けたりと対応している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	BPSD発生時や困難な場合等、職員間での連携、場合によっては家族とも相談し対応している。一人一人の生活時間に可能な限り合わせられるよう、心がけている。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	事前に知り得た情報は、職員がいつでも確認出来る場所に保管し、本人の把握に努めている。又、家族や知人の面会時からの情報も大切にしている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	ご本人の状況に合わせ随時、環境、生活の過ごし方も検討、変更している。又必要に応じてご家族や、協力医療機関とも相談、情報共有しながら、ケアに反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>プラン作成、変更時は可能な範囲、ご家族ともお話をし改めて希望、意向をお伺いしプランを作成、同意を得るようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の変化、対応など申し送りを活用し対応している、また計画作成にも現在の状態、対応も含め検討している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>現在コロナウイルスの影響の為、地域サークルへの参加、傾聴ボランティア等も中止している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>現在コロナウイルスの影響の為、地域資源との連携が困難にて、本人の現在の状況、家庭環境等も考慮しながら対応している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居の際、協力医療機関への主治医の変更をお願いしているが、家族の希望があればそのままの主治医で対応している。また、緊急時の受け入れ希望など主治医に伝え可能な範囲反映している</p>		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約し必要に応じて協力、相談、情報交換出来ている。又、職員含め、安心出来る体制作りが行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携にて、スムーズな入退院を行えるように配慮している。必要に応じてカンファレンス等にも参加し情報共有をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時の説明以外でも、必要に応じて家族とも通信ツールを利用して相談、連絡等行っている。訪問診療時での変化があれば、ご家族に伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	現在コロナウイルスの影響の為、スタッフが研修、勉強会で学べるような体制が制限されているが、受講したスタッフが会議やミーティング等で知識、技術が共有出来る機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣住民協力のもとでの合同避難訓練を含めて、年2回実施しているが、コロナウイルスの影響により制限がある中での避難訓練となっている		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者各々の性格や状態も含め、不快のない理解のしやすい声掛けやケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の訴えや希望を可能な範囲で対応できるよう心がけ実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の思いを訴えることができる方については、希望を出された際にはできるだけ対応している。また、身体的な介助が多い方でも、なるべく負担なく、普通の生活を行えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧や衣類に関しても、以前からの習慣を継続出来る様配慮し本人の意向も反映するようにしている。そうされる行動を職員が賛美することにより、日々の生活に張りを与えていると感じている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホーム内にて職員手作りの食事が中心となっており、盛り付けや、野菜の下処理、準備、片付けは、利用者様と職員と一緒にしている。月に数回イベントの日もあり、希望を取り入れたメニューも心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス, 水分量が一日を通じて確保できるよう, 一人ひとりの状態や力, 習慣に応じた支援をしている。	主食、副食の形態、量など個々の状況をみながら提供している。また、個人の習慣、嗜好も配慮し、個別食なども対応している。水分補給は全体的なバランス補給を行いながら、一日の水分摂取量が少ない方へは記録対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように, 毎食後, 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは1日3回実施し、口腔内の磨き残しの確認等をスタッフが行っている。コロナウイルスの影響の為、一時期、訪問歯科受診は中止していたが、再開され、口腔ケア指示書も頂けるようになり必要な方は隔週受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし, 一人ひとりの力や排泄のパターン, 習慣を活かして, トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	随時、また定時の排泄誘導を前後の排泄状態を考慮しながら行っている。またパットなども季節や本人の状況によって形状を変更している。また、なるべく排泄用品も使わないよう検討、変更している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し, 飲食物の工夫や運動への働きかけ等, 個々に応じた予防に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響の為、外出自粛にて行動にも制限があり便秘傾向が助長されているので、乳製品・室内での体操・歩行練習・食材の選択に配慮しながら、又必要に応じては主治医と相談しながら、排便調整に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように, 職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく入浴をスムーズに受け入れていただけるよう声掛けや誘導にも工夫している。また、利用者からの希望があれば予定日以外での入浴や、通常午後から入浴を行っているが、必要に応じて午前でも可能な範囲実施している		

自己 評価	外部 評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	特に夜間は柔軟性を持って関わり、 安心していただけるよう臨機応変 に対処している。また、内服も可 能な範囲使わず一定期間は様子 をみるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬状況がわかるようファイルに 閉じスタッフがいつでも確認でき るようにしている。また、服薬の 変更、その後の状態の変化の観 察を申し送りにて伝え、ドクタ ーとも連携して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生活歴や日常の会話、家族との 会話の中から得た情報を活かし、 個別に外出場所も変更している。 職歴の会話の中から、ご本人の 役割を見出し、支援し実行して いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけるよ うに支援している。	現在コロナウイルスの影響の為、 外出自粛となっており、今まで 行ってきた事が制限されている 状況にあるが、感染予防を行い 可能な範囲での、車でのドライ ブや散歩等にてストレス解消を 図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	基本的には所持されていないが、 金銭に対しての思いが強い方な どは少額を持って頂き、精神的 に安定していただけるよう配慮 している。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族への電話や、毎月の通信に記入可能な利用者からの直筆コメントも入れてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>コロナウイルスの影響の為、外出自粛の観点から、ホーム内の壁画や季節の飾りなど月ごとに変え、環境を変化させて、利用者との会話の広がりを持たせている。またその他の環境面等もシンプルにわかりやすくしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペース以外にもテラスではプランターに花や野菜を一緒に植えたり、収穫したりし、その成長を外気浴を兼ね、のんびり眺めていただいたり、「くつろぎの間」と称した椅子とテーブルのある場所なども用意し、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族へもなるべくご本人にとって馴染みのある物を持ってきていただくようお願いし、それらを含め動線に沿った配置も行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>本人の状態を考慮し、自分で生活動作を思うように行えるよう、物の位置には特に安全であるように環境整備に配慮している</p>		

V アウトカム項目(高陽②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・高陽

作成日

令和3年11月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	10月からの新しいスローガン「勇気のある一歩で創造する未来」の職員への周知と説明がまだ不十分。	職員にスローガンを周知し、今までしたことのない事にチャレンジ。	・有資格者の職員による、内部研修。 ・新入社員の研修形態の構築と育成。	1年
2	12	職員の定着と安心して長く働ける職場環境が作れる。	年間を通じ、退職者を減らし安定した運営ができる。	職員が気持ちよく働けるよう、職場内環境（休憩、人間関係）の維持、待遇の改善。	1年
3	20	コロナの影響もあり利用者と家族との関係性が乏しくなっている。	家族との繋がりが増え、屋外への活動もできるようになる。	これまで同様の感染対策に実施（持ち込まない）を行い、ご家族へも協力を継続してもらおう。	1年
4	13	今年度はコロナウイルスの影響の為、スタッフが研修の機会が持てなかった。	研修の機会が持てる。	職員のスキルアップや質の高いケアを学ぶことにより、職員のメンタル面や、技術的な自信にも繋がる。	1年
5	49	今年度はコロナウイルスの影響の為、外出支援が出来なかった。	コロナウイルスの収束を願い、利用者様の活性化を図る。	少しずつでも、以前に近い環境に戻り、刺激を感じられる様な環境、行動が出来るようになる。	1年
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。